

仮設住宅入居者などへの支援活動のあらまし

2011年12月1日

NPO 法人しらかわ市民活動支援会

1. 福島県の蔬菜者、仮設住宅の特徴

- (1) 建設戸数 16,176 戸 内、完成済み戸数 15,650 戸 (11月18日現在)
- (2) 特徴
 - ・ 一つの被災自治体の仮設住宅が、複数の受入自治体に分散して建設されていること
 - ・ 被災自治体が主に、浜通りの双葉郡 8 町村なので、同じ浜通りのいわき市に周知有して建設されていること。11月18日現在、2,879 戸 (18%)。今後、ますます増える傾向。いわき市への避難者の数は、行政が把握しているだけでも、2 万人を超している。
- (3) 借上げ住宅 (みなし仮設) が、約 22,000 戸と多いこと。そして、その実態が十分には把握できていないこと。
- (4) 県外へ避難している人が多いこと。11月2日現在 58,769 人と多いこと。一度、県外へ避難した人が福島県内へ戻ったり、新たに県外に避難することが増えていること。

2. 絆づくり支援センターの概要

- (1) 「がんばろう福島! “絆” づくり応援事業」(NPO 法人うつくしま NPO ネットワークが福島県から受託) の一環として、県内 6 箇所 (県北・県中・県南・会津南会津・相双・いわき) に設置運営。仮設住宅で暮らす人たちの絆づくりを支援することが目的。
- (2) 仮設住宅入居者のサポート
 - ・ 相談業務
 - ・ 定期的な訪問 (聞き取りや情報提供。時に、必要な場合は、生活支援物資などの提供)
 - ・ 「絆新聞」などの配布
 - ・ 集会所などを利用した講座、イベント、集まりなどの提供
- (3) 被災自治体向けサポート
 - ・ 定期的な訪問 (仮設住宅に関する情報交換、など)
 - ・ 絆づくり応援メニューの企画提案
 - ・ 地域別連絡調整会議の組織化

3. 県南地域絆づくり支援センターの活動

- (1) 運営: NPO 法人しらかわ市民活動支援会 (樋口葉子センター長)
- (2) 県南地域の仮設住宅について
 - ・ 仮設住宅数・・・387 戸 (白河市 140、西郷村 42、矢吹町 85、双葉町 120)
 - ・ 入居人数・・・587 人 (白河市 254、西郷村 54、矢吹町 208、双葉町 71)
- (3) 白河市避難者支援連携会議の組織化
 - ・ 役割: 仮設住宅支援に係わる関係者が一堂に集まり、情報と意見交換を行い、支援の

量と室を高めていくための打合せ・調整の場

- ・ 構成団体：白河市地域支援課、健康増進課、社会福祉協議会、相談支援専門職チーム、地域包括支援センター、県南地域絆づくり支援センター、NPO法人カルチャーネットワーク、県南地方振興局、県南保健福祉事務所、ボランティア団体等

(4) 活動の概要

- ・ 電話相談・窓口相談（情報がほしい、支援物資がほしい、住宅の雨漏りなど）
- ・ 支援物資（秋冬物衣料）の提供（借り上げ住宅含）
- ・ 交流いも煮会（双葉町仮設住宅入居者並びに借り上げ住宅避難者）の実施
- ・ 「新そばまつり」そば打ち体験イベント（双葉町仮設住宅入居者並びに借り上げ住宅避難者）
- ・ 標葉せんだん太鼓（双葉町）のメンバーを囲む双葉町出身者の懇親会の実施

(5) 仮設住宅生活者の声

- ・ 初めての土地で何もわからない。何かイベントがあるとみんなで集まれるので、定期的に何かやってほしい。
- ・ 今はいいけど、将来が不安でたまらない。仕事に関する情報がほしい。
- ・ 冬場対策に必要な支援物資がほしい。
- ・ 何かイベントがあるとみんなで集まれるので、定期的に何かやってほしい。
- ・ 双葉町には、本当に、戻れるのだろうか。戻れないような気がする。

4. 今後の課題

- (1) 被災自治体、受入自治体、支援団体との連携・調整を進め、継続的で室の高い支援を実施していくこと
- (2) 借り上げ住宅（みなし仮設）入居者への支援を組み立てていくこと

